

2 交通のべんにめぐまれた町

(1) 鉄道の発展

河東町は、むかしから、いろいろな道が通っていました。喜多方市や会津坂下町へ行く道や、八田野に「一里づか」があるように磐梯町や猪苗代町を通過して、さらに東京につながるたいせつな道も通っていました。

今から100年ほど前の1899年（明治32年）7月に郡山から会津若松まで鉄道が開通し、広田ていりゅう場（今の広田駅）ができました。国に12年間ずっとおねがいしつづけてやっとできた鉄道です。町の人々

はたいへんよろこびました。

1904年（明治37年）には会津若松から喜多方まで開通しました。しかし、今の場所に堂島ていりゅう所ができたのは、それから30年あとの1934年（昭和9年）でした。そして、1940年（昭和15年）に東



▲ いさましく走る蒸気機関車D51

長原駅もできました。

1967年（昭和42年）に磐越西線の電化工事は完成し、7月1日から運転がはじまりました。黒いけむりをはく蒸気機関車のかわりにクリーム色とピンク色のスマートな電車が走るようになりました。



▲ さっそうと走る電車